

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372101006
法人名	特定非営利活動法人 今が一番館
事業所名	グループホーム 今が一番館
所在地	〒020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢妻の神157-3 (電話)019-688-1320

評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年6月11日	評価確定日	平成19年8月7日

## 【情報提供票より】(19年 5月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 18 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	14,500 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

### (4) 利用者の概要( 5月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.9 歳	最低	64 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋胃腸科内科クリニック他
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、住宅が集中する地区とは線路で隔てられた場所にあり、田んぼや畑に隣接したのどかな環境となっている。近隣の森は緑豊かで、敷地内から見える岩手山も雄大で美しい。2ユニットで運営されているが、職員を固定してそれぞれの独自性を尊重しながら協力的体制がとられている。また併設のデイサービスや居宅支援事業所を活用することにより、継続的で柔軟なサービス提供へとつなげている。自宅に帰りたい気持ちが強く、可能性がある利用者に対しては、「グループホームからの卒業」(在宅復帰)にも取り組んでおり、独自の利用者本位の方針として捉えることができる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>内部での勉強会に関して記録があったほうが良いというアドバイスから、以降は記録を整備している。また家族会について提言があり、課題はあるものの設立に向けて取り組みがされている。ホールに飾っている花も前回評価の意見を参考にしており、今後さらに廊下にも安全面を配慮しながら飾ることを検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人一人が振り返りを行い、検討した上で自己評価結果をまとめている。職員の全員が取り組むことを重視している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>開催当初から回を重ねるにつれて、会議のテーマを明確にしようという意識が参加メンバーに生じてきている。今回はヒヤリハットおよび事故報告を運営推進会議で行っており、事業所の透明性の向上と事故防止の手立てを豊かにすることに活かされている。参加メンバーを柔軟に設定しながら、家族会の設立、見守りおよび防災対応における地域の協力依頼、地域の一員としての貢献活動など、運営推進会議を活かせる今後の取り組みは多いものとする。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族から直接苦情が出されることはなく、アンケートの実施など率直な意見が得られるよう工夫はしている。設立に向けて取り組んでいる家族会が軌道に乗れば、率直な意見交換や今後の不安に対する家族支援、引いては「グループホームからの卒業」に対する理解の促進も期待できる。近隣のグループホームとの交流も良好なため、協力して合同の家族会開催も可能であると思われる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所内のスペースを住民の趣味活動の場として開放したり、廃品回収や花植えなどの地域活動への参加、保育園など他施設との交流、啓蒙活動など、地域交流の観点から複数の活動が実施されている。線路を隔てた向こう側の地域住民には、事業所への関心や理解を得るのがやや困難な側面もあるため、今後も積極的な取り組みが期待される。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	大事にしていきたいこととして「利用者が安心できる」、「利用者に添う」など、職員全員の意見を集約、検討を重ねたという。そのうえで、利用者に向けての理念として「安心してください。あなたの傍に私がいいます。」が定められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全体で考えるプロセスを通して、理念の共有が図られていることが伺える。またホームページ上で対外的に伝えており、ホールにも大きく掲示している。利用者からも親しみやすいという意見が得られている。	○	理念を中心にした日々の実践を通じた、理念策定時にはいなかった新規の職員も含めてのさらなる共有と気づきに期待する。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	いくつかの地域活動に参加しているほか、近隣の保育園とも定期的な交流をしており、廊下などに園児による絵が展示されている。併設のデイサービスでは地域住民の趣味活動にスペースを提供しており、近隣の人たちが訪れる機会を得ている。	○	保育園との交流においては、保護者や先生を対象とした認知症ケアの啓蒙活動も行っている。高齢者支援の枠のみにおさまらない意欲的な取り組みであり、今後も継続されることによって地域の意識や交流が高まっていくものと考えらる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内部で実施している勉強会についての記録整備や、家族会設立に向けての行事計画(家族同行の日帰り温泉旅行)など、外部評価からの意見をきっかけにした取り組みがされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	ひやりはっつ・事故の事例を報告した際に事業所内の物理的な構造面について指摘をいただき、サービス提供時の対応に活かしている。また地域住民への認知症勉強会への講師依頼や公民館活動への参加など、地域との交流のきっかけとなっている。	○	家族会設立に向けて取り組んでいるが、その設立困難も予想するので、地域の多様なメンバーが参加する運営推進会議の後押しを活用することも一考と考える。また利用者への地域の見守りや災害時の協力体制などに関しても、運営推進会議を活かしての関係づくり・維持が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者の異動に伴い、交流が深まり様々な情報を得ることができるようになった。また行政が委嘱した介護相談員が来訪した機会を利用し意見交換を行うとともに、その際事業所のサービス提供の姿勢を伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	サービス提供状況についてはケア計画の説明と同意を得るときに報告し、また事業所全体の行事等の取り組み状況については広報で定期的に家族へ報告している。また家族が訪れた際にはケース記録をもとに日々の暮らしぶりを伝えており、家族からも好評を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置しているが、これまで苦情に関する投書はない。このほかにも時々実施する家族アンケートなどを通じて意見を把握している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は少なく、職員体制として安定している。職員に過度の負担とならないよう勤務シフトに配慮しており、夜勤は週1回以内となっている。また仕事の意欲、給与、人間関係などの点で環境整備に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、勉強会などの他、事業所内に関連文献やビデオもそろえ、職員が自由に閲覧できるような環境づくりを行っている。また2つのユニットは職員がそれぞれ固定しており、率直な意見交換をしていくなかで最も身近な同業者として互いを高め合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症疑似体験の研修では近隣のグループホーム同士で協力しあい、互いに貴重な学びの機会となっている。また岩手県グループホーム協会の事務局であることから、事業者間の連帯を促進していく立場としての側面も担っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスにはグループホームの利用者も行き来しており、デイサービス利用からグループホーム入所に移行するケースなどでは馴染みの関係が継続されている。また外で飼えるペットを連れての入所にも対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問日当日、食事の準備や後片付けを何人かの利用者が行っている様子が見受けられた。「週に1回事業所内を自分が大掃除している」と嬉しそうに語ってくれた方もいた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式に沿ったアセスメント記録には利用者の好みや生活の傾向が詳細に記録されている。ケース記録には利用者から言われたことをそのまま記録するようにしており、本人の意向や心情が把握しやすいものとなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア計画には職員全員の意見が反映されるようになっており、作成した計画は家族に説明し同意を得ている。家族のいない利用者に関しては客観的な視点が入らないことから、事業者本位の計画にならないよう特に配慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア計画の評価は毎月実施されている。日々のサービス提供のなかで2つの提供項目を取り上げ、毎日の実施状況の評価した上で、1ヶ月間の総合的な評価を行っている。その内容はケア計画書に簡潔に示されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望する利用者はデイサービスに行き、体操やお茶の時間に参加しているなど、利用者の生活に幅をもたせるものとして併設のデイサービスが有効に活かされている。また家族アンケートでは「職員個々が柔軟な対応をしている」と好評が得られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所が所在する地域は多種の医療機関に恵まれているが、当ホームでは複数の診療科との協力関係を築いている。また希望があれば入居前からのかかりつけ医に受診できるよう配慮している。体調不良問わず、利用者の誕生日を目安として毎年定期受診をしている。	○	地域内で神経内科を受診することができ、受診する機会も多いと聞く。地域および事業所としての強みであり、重要事項説明書などの資料に明記されれば、利用者側の安心感もさらに高まると考える。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常勤の看護職を採用し医療専門職を配置している。また看取りが想定される方に関しては、利用者側から意思確認を行っており、利用者および家族の要望に沿った支援を重視したいという姿勢がみられる。	○	具体的な手順の明確化は今後の作業となる。また終末期においては利用者本人や家族の意識も揺らぐことが想定される。医療機関のバックアップを得ながら、これまで築いてきた利用者家族との良好な関係性を活かして、信頼を得ながらの終末期支援が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに関しては、利用者側からアンケートで情報の種類(名前、写真など)や活用先(広報や研究発表など)に応じて細かく意向を把握している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者から具体的な要望が出されることは多くはないけれども、一人一人の意向は尊重している。当日は多くの利用者がホールで過ごしていたが、職員が適度に話しかけながら見守りをしているなかで、それぞれ個々の時間を安心して過ごしている場面が見受けられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、利用者がその日のスーパー広告を見たり、店で買い物をする際に食べたいと思った食材を取り入れながら考えている。準備や後片付けでも利用者が自然に行っており、利用者本位な支援として捉えられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は好きな時間(夜は19時半まで)に入ることができ、希望があれば毎日入ってもらうこともできるようにしている。話をうかがった利用者の方は、いつも夕食後に入浴しているとのことである。入浴しない日が続く方に関しては、家族から入浴を勧めってもらう方法もとっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、掃除などの日々の家事はそれぞれの利用者の役割として定着している様子がうかがえた。また楽しみごととして、ホールで歌謡番組のビデオをみたり、脳力トレーニングのドリルを解いたり、昔の教科書をみて学校時代を思い出しながら過ごすなどの時間を設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣にはダムや公園、温泉などちょっと出かけるのに適した場所が多く、半日程度のドライブにしばしば出かけている。事業所の近辺は畑や田んぼ、森になっており、車通りの少ない道を職員が付き添って散歩することもあり、天気の良い日はのどかで快適なものと考えられる。さらに利用者から当日外出を希望する場合にも対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中の玄関には鍵をかけておらず、玄関はセンサー感知式のチャイムで出入りがわかるよう工夫している。建物の構造も、L字型の中央付近に出入り口が集まっており、見守りがしやすい環境となっている。	○	事業所前の道を進むとすぐに森に入るといった地理環境と民家および人通りの少なさが、利用者が1人で出かけてしまった際の不安要素であると考え。警察の見回りも多い地区であり、近所の方の協力もあってこれまで大事には至っていないが、万が一を想定して今後も地域の協力を得ていくことは重要と思われる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施や職員の救急救命研修の受講のほか、利用者用に戦時中のもと同様の防災ずきんを用意し、訓練時および災害時に利用者にとっての危機意識を高める工夫をしている。	○	災害時対応について、地域住民との明確な協力体制(協力者の名簿作りや訓練への参加)の構築は今後の取り組みとなる。また非常出入口が建物中央部に集中しているため、両端部にもあると避難がより容易になると考えられるが、消防署から意見を聞きながら、現在検討を重ねている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事メニューは材料やカロリー数が記録されており、栄養摂取の状況把握はきめ細くくなされている。頂き物のお菓子などがあるときは、糖分を控えている利用者には難しい側面もあるものの、心情を配慮して利用者全員でいただくことを重視しているという。	○	家族には糖尿病の利用者がいることを伝えているにもかかわらず、それでも訪問家族からお菓子をいただく場合があるという。気遣いに応えながらも状況の説明を継続し、理解が得られることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての部屋や廊下、浴室などは自然光が多く入る構造で、全体的に明るい空間となっている。また各部屋から見える畑、田んぼ、岩手山などは四季の移り変わりを感じさせるのどかな風景となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の部屋の状況は、たくさんの物がある部屋やすっきりしている部屋など、それぞれの方の個性に合わせて様々である。部屋に家族の写真を飾っている方が何人か見受けられ、写真を見て家族とはわからないことも多いと聞くが、それでも時に思い出話をするきっかけとなっている。また居室は家族が泊まることも可能である。		